

大原医療福祉&スポーツ保育専門学校姫路校 情報提供資料

専門学校等における情報提供等への取組みに関するガイドラインに基づき、大原医療福祉&スポーツ保育専門学校姫路校の情報を以下のとおり提供致します。

1. 学校の概要、目標および計画 (1)

(1) 概要

- 【学園名称】 学校法人 大原学園 理事長 中川和久
 【学校名称】 大原医療福祉&スポーツ保育専門学校姫路校 校長 重塚悟
 【所在地】 ①学園本部 〒101-8352 東京都千代田区西神田 1-2-10 TEL 03-6740-0008
 ②学校 〒670-0902 兵庫県姫路市白銀町 61 番地 TEL 079-284-2700
 【創立】 1957年東京水道橋に大原簿記学校を開校し、1979年に学校法人大原学園を設立。
 【設置校等】 グループ校総数 107校 (2017年4月1日現在)
 ①大原学園設置校[79校] 教職員総数 1,810名

■北海道 4校

- 札幌 大原簿記情報専門学校札幌校
 札幌 大原医療福祉専門学校
 札幌 大原法律公務員専門学校
 函館 大原簿記公務員情報医療専門学校函館校

■東北 4校

- 盛岡 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校
 盛岡 大原スポーツ公務員専門学校盛岡校
 山形 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校
 山形 大原スポーツ公務員専門学校山形校

■関東 29校

- 水道橋 大原大学院大学 (会計専門職大学院)
 水道橋 大原学園高等学校 (通信制・通学型高校)
 府中 府中ひばり幼稚園 (年少・年中・年長)
 水道橋 大原日本語学院 (日本語学校)
 水道橋 大原簿記学校
 水道橋 東京ホテル・トラベル学院専門学校
 水道橋 大原医療秘書福祉保育専門学校
 水道橋 大原法律専門学校
 水道橋 東京アニメーター学院専門学校
 池袋 大原情報ビジネス専門学校
 立川 大原簿記公務員医療福祉保育専門学校立川校
 町田 大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校
 横浜 大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校
 横浜 大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校
 横浜 大原法律公務員専門学校横浜校
 千葉 大原簿記公務員専門学校千葉校
 千葉 大原医療秘書福祉専門学校千葉校
 津田沼 大原簿記公務員医療情報ビジネス専門学校津田沼校

■北陸 8校

- 福井 大原簿記法律専門学校福井校
 福井 大原テクノデザインアート専門学校
 福井 大原スポーツ医療保育福祉専門学校
 福井 大原キャリアビジネス&ペット専門学校
 金沢 大原簿記法律観光専門学校金沢校
 金沢 大原情報デザインアート専門学校金沢校
 金沢 大原美容&ビューティー・ブライダル専門学校
 金沢 大原医療福祉・製菓&スポーツ専門学校

■関西 17校

- 新大阪 大原簿記専門学校大阪校
 新大阪 大原法律公務員&スポーツ専門学校大阪校
 新大阪 大阪保育こども教育専門学校
 新大阪 大阪歯科衛生学院専門学校
 難波 大原簿記法律専門学校難波校
 難波 大原情報デザインアート専門学校
 難波 大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校
 難波 大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
 梅田 大原簿記法律専門学校梅田校
 梅田 大原医療福祉製菓専門学校梅田校
 神戸 大原簿記専門学校神戸校
 京都 大原簿記法律専門学校京都校
 京都 大原スポーツ&メディカル専門学校京都校
 和歌山 大原簿記法律&美容製菓専門学校和歌山校
 和歌山 大原情報医療保育専門学校和歌山校
 姫路 大原簿記情報法律専門学校姫路校
 姫路 大原医療福祉&スポーツ保育専門学校姫路校

■九州 11校

- 福岡 大原簿記情報専門学校福岡校

柏 大原簿記法律専門学校柏校
大 宮 大原簿記情報ビジネス専門学校大宮校
大 宮 大原医療秘書福祉専門学校大宮校
大 宮 大原こども専門学校
大 宮 大原法律公務員専門学校大宮校
水 戸 大原簿記情報公務員専門学校水戸校
水 戸 大原医療福祉専門学校水戸校
宇都宮 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校宇都宮校
宇都宮 大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校
高 崎 大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校
高 崎 大原スポーツ公務員専門学校高崎校

■甲信越 6校

甲 府 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校甲府校
甲 府 大原スポーツ公務員専門学校甲府校
長 野 大原簿記情報ビジネス医療専門学校
長 野 大原スポーツ公務員専門学校
松 本 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校
松 本 大原スポーツ公務員専門学校松本校

②大原グループ関連校（28校）

■東 北 3校

仙 台 仙台大原簿記情報公務員専門学校
仙 台 仙台大原公務員ゼミナール
仙 台 仙台大原ライセンススクール

■関 東 4校

水道橋 大原予備校
早稲田 資格の大原 早稲田校
新 宿 資格の大原 新宿校
横 浜 資格の大原 日吉校

■甲信越 2校

新 潟 大原簿記公務員専門学校新潟校
新 潟 大原医療秘書専門学校新潟校

■北 陸 1校

富 山 富山大原簿記公務員医療専門学校

福 岡 大原スポーツ公務員専門学校福岡校
福 岡 大原保育医療福祉専門学校福岡校
小 倉 大原簿記公務員専門学校小倉校
小 倉 大原医療福祉製菓専門学校小倉校
八 幡 大原自動車・スポーツ専門学校
大 分 大原簿記公務員専門学校大分校
大 分 大原医療介護福祉専門学校大分校
熊 本 大原簿記情報専門学校熊本校
熊 本 大原スポーツ公務員専門学校熊本校
熊 本 大原保育医療福祉専門学校熊本校

■東 海 15校

静 岡 大原簿記情報医療専門学校静岡校
静 岡 大原法律公務員専門学校静岡校
静 岡 大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校静岡校
浜 松 大原簿記情報医療専門学校浜松校
浜 松 大原法律公務員専門学校浜松校
浜 松 大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校
沼 津 大原公務員医療観光専門学校沼津校
沼 津 大原介護福祉専門学校沼津校
名古屋 大原簿記情報医療専門学校
名古屋 大原法律公務員専門学校
名古屋 大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校
岐 阜 大原簿記医療観光専門学校岐阜校
岐 阜 大原法律公務員専門学校岐阜校
津 大原簿記医療観光専門学校津校
津 大原法律公務員専門学校津校

■四 国 1校

松 山 大原簿記公務員専門学校愛媛校

■九州・沖縄 2校

宮 崎 大原簿記公務員専門学校宮崎校
那 覇 沖縄大原簿記公務員専門学校

③大原グループ研修所（3ヶ所）

川崎 大原学園登戸研修所 菅平 大原菅平ビガークラブ 富士宮 大原富士宮ビガークラブ

(2) 教育方針「専門課程（高卒・短大卒・四大卒対象）」

- 校訓 『感奮興起』、感奮は感動して奮い立つ意味を持ち、心の躍動を表します。興起は興味を持って立ちあがる意味を持ち、身体の躍動を表します。
- 目的 『簿記、税務、情報処理、法律、行政、医療、保育、福祉、スポーツ、製菓、美容、歯科衛生、自動車整備並びにこれらのビジネス等に関わる教育及び人格の陶冶を行い、地域社会で有為な人材を育成する』ことを目的としています。

■三段階教育法

大原学園では、入学から卒業までの全期間をもって完結する1つのストーリーと考え、教育プログラムを三段階（四期）に分けて構成しております。

★第一段階『成功体験期』

初めて専門教育を受ける学生が、卒業までの学習を続けられる自信をつける期間であり、各コースでの短期目標を達成することで「やればできる」という成功体験を、身を以て体験し、次のステップに向けてのモチベーションを高める期間となります。

★第二段階前期『専門学習期』

成功体験期で学習内容を絞り込んだ学習から、資格難易度の高度化、学習科目の多科目化、より実践に近い技術の習得など、コースの特色に合わせた本格的な学習を通して、高度な知識の定着と技術の習得を目的とする期間となります。

★第二段階後期『実践期』

専門学習期までに身につけた高度な知識や技術を実践に結びつける期間であり、最新実務の知識や技術を学び、実践的な学習や演習、校外実習、インターンシップ等を通じて、目標としている就職先で必要となる実践力を身につける期間となります。

★第三段階『入社準備（PCP）期』

専門性の総仕上げ、総まとめを行い、入社後には即戦力として活躍できるように最終仕上げを行う期間であり、これにより高い実践力に磨き上げて、入社後にスムーズなスタートを切れるよう教育を行う期間となります。

(3) 沿革

1957(昭和 32 年)	各種学校・大原簿記学校を創立	2004(平成 16 年)	梅田校
1976(昭和 51 年)	専修学校・大原簿記学校に組織変更		医療福祉製菓梅田校
1979(昭和 54 年)	準学校法人・大原学園に組織変更	2005(平成 17 年)	立川校
1981(昭和 56 年)	大阪校を開校（以下「開校」を略する。）	2006(平成 18 年)	大原大学院大学を開学
1982(昭和 57 年)	学校法人・大原学園に組織変更		医療秘書福祉大宮校
	府中ひばり幼稚園を開園		保育医療福祉福岡校
1985(昭和 60 年)	横浜校	2007(平成 19 年)	医療秘書福祉保育横浜校
1987(昭和 62 年)	札幌校		福井校
1989(平成元年)	池袋校	2009(平成 21 年)	大原学園高等学校
1990(平成 2 年)	菅平校		千葉校
	福岡校		長野校(菅平校移転)
1991(平成 3 年)	津田沼校		大阪歯科衛生学院
	大宮校		スポーツ&メディカルヘルス難波校
1995(平成 7 年)	法律東京校		スポーツ&メディカル京都校
1996(平成 8 年)	柏校		和歌山校
1997(平成 9 年)	町田校	2010(平成 22 年)	函館校
	法律公務員大宮校	2011(平成 23 年)	高崎校
1998(平成 10 年)	法律公務員&スポーツ大阪校		金沢校
1999(平成 11 年)	医療福祉札幌校	2012(平成 24 年)	宇都宮校
	法律公務員横浜校	2013(平成 25 年)	水戸校
2001(平成 13 年)	大阪保育こども教育校		昴自動車・スポーツ八幡校
	神戸校	2014(平成 26 年)	大分校

2002(平成 14 年)	法律公務員札幌校 医療秘書福祉保育東京校 京都校 スポーツ公務員福岡校 簿記公務員小倉校	2015(平成 27 年)	盛岡校 松本校 姫路校
2003(平成 15 年)	大原日本語学院 簿記法律難波校 情報デザインアート難波校	2016(平成 28 年)	甲府校 熊本校
		2017(平成 29 年)	山形校 東京ホテル・トラベル校 東京アニメ校

2. 各学科の教育（2）

（1）入学定員、入学者数及び在籍者数

①入学定員

学科名	入学定員	総定員
医療事務学科	30名	60名
医療事務学科1年制	20名	20名
スポーツ産業学科	40名	80名
介護福祉学科	35名	70名
保育学科	40名	80名
合計	165名	310名

②入学者数及び在籍者数

学科名	入学者数	在籍者数
医療事務学科	23名	53名
スポーツ産業学科	26名	54名
介護福祉学科	0名	5名
保育学科	20名	30名

（2）受入方針

■入学資格

本校の入学資格は、次のとおりとする。

1. 高等学校を卒業した者
2. ①と同等以上の学力があると認められる者

■入学時期

本校の入学時期は、毎年4月とする。

■入学手続・許可

本校の入学手続は、次のとおりとする。

- ① 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書その他の書類に必要事項を記載して、出願しなければならない。
- ② 前号の手続きを終了した者に対して書類考査又は必要に応じて試験を行い入学者を決定する。
- ③ 本校に入学を許可された者は、入学許可の日から10日以内に第24条に定める入学金を添え入学手続をとらなければならない。
- ④ 本校に入学しようとする者は、入学願書提出時に第24条に定める入学検定料を納付しなければならない。

(3) カリキュラム

① 医療事務学科

総履修時間 2,000 時間 (各学年 1,000 時間)

(商業実務専門課程医療事務学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			漢字	日常的に利用する漢字能力を身に付けることを目的とする。 ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと四字熟語、慣用句なども学ぶ。	1・2通	80		○		
○			電卓	電卓技能の向上を目的とする。 企業内でも多く活用されている電卓のスピード、正確性を高める実技練習を行う。	1・2通	80		△	○	
○			ビジネス基礎	基本的なビジネスマナーを身に付けることを目的とする。 企業人として最低限身に付けていなければならない立ち振る舞いなどを学ぶ	1通	40		○		
○			パソコン実習	ワード、エクセルの基本操作を身に付けることを目的とする。スピード、正確性を向上させるトレーニングを行う。	1・2通	80		△	○	
○			医療請求事務Ⅰ	医科における請求事務を理解することを目的とする。 診療録(カルテ)から明細書(レセプト)を作成するための基礎的な知識を学ぶ。	1①	80		○		
○			医療請求事務Ⅱ	医科における請求事務を理解することを目的とする。 診療録(カルテ)から明細書(レセプト)を作成するための応用的な知識を学ぶ。	1①②	40			○	
○			医療秘書実務	病院内での秘書業務として、スケジュール管理、書類作成、受付会計業務における患者対応方法などを学ぶ。	1①	80		○		
○			医学基礎知識	医学の基礎知識を理解することを目的とする。 身体の仕組み、病気の症状、原因、治療方法を学ぶ。	1①	40		○	△	
○			医学関連知識	臨床医学の基礎知識を理解することを目的とする。 身体の各機能の働きやしきみ、検査方法、治療方法を学ぶ。	1①	80		○		

○		医療保障論	日本の医療保障制度を理解することを目的とする。 医療保障制度、社会保障制度についての概念、概要、法規等を学ぶ。	1 ①	80		○	△	
○		医療関連法規	医療に関連する法律を理解することを目的とする。 医療法をはじめ、医師法、療養担当規則等を学ぶ。	1 ②	80		○	△	
○		病院管理論	病院のしくみ、組織を理解することを目的とする。 病院の沿革、目的と機能を始め、各部門職員の業務内容、役割などを学ぶ。	1 ①	80		○		
○		医事コンピューター実習 I	医事コンピュータの基礎的な操作方法習得を目的とする。 診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を医事コンピュータを使用して作成するトレーニングを行う。	1 ③	120		△	○	
○		患者接遇 I	患者のタイプ別性質を踏まえた対応方法を理解することを目的とする。 各タイプに合った対応方法、注意点などを学ぶ。	1 ③	40		○		△
○		病院実習 I	現場での実習を通して、医療事務と他部署との連携を理解し、実践することを目的とする。 他専門職との関わりを学び、場面に適した言動、行動を実践を通して身に付ける。	1 ③	120				○
○		人文科学	公務員試験に関する知識習得を目標とする。日本史・世界史・地理等について学ぶ。	2 ①	160		○		
○		社会科学	公務員試験に関する知識習得を目標とする。政治、経済、社会等について学ぶ。	2 ②	160		○		
○		自然科学	公務員試験に関する知識習得を目標とする。物理、化学、生物等について学ぶ。	2 ①	160		○		
○		文章理解	公務員試験に関する知識習得を目標とする。現代文、英文の長文読解等について学ぶ。	2 ②	160		○		
○		数的推理・判断推理	「速さ」「仕事算」「場合の数」などの基礎的な問題の解法習得や、「論理」「順序」「対応」などの基礎的な問題の解法習得を学ぶ。	2 通	280		○		
○		簿記原理	簿記の基本原理の理解を目的とする。 個人商店を前提とした複式簿記の基本原理を学ぶことで簿記の基本原理を理解させる。	2 ①	40		○	△	
○		簿記通論	個人商店を前提とした会計処理方法の習得を目的とする。 一般的な商取引に対する会計処理、簿記の基礎にある初歩的な会計理論を学ぶ。	2 ①	40		○	△	

	○	帳簿組織論	商企業を前提とした、伝票会計、帳簿組織などの記帳技術を習得する事を目的とする。 試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類との関連性も体系的に学ぶ。	2 ①	40		○	△	
	○	秘書概論	秘書の基礎概念と基本的な考え方を体系的に学び企業内における秘書の役割を理解する。	2 ①	40		○		
	○	秘書実務	秘書として行うべき業務の基礎知識を理解することを目的とする。 秘書業務の知識と実務の現状、接遇対応の知識、方法を学ぶ。	2 ①	40			○	
	○	秘書実務演習	秘書業務の実際を演習形式の授業を通して理解することを目的とする。来客対応や電話対応などのロールプレイングを行い、秘書としての技能を身につける。	2 ①	40			○	△
	○	サービス接遇概論	接客対応の様々な状況を理解した対応能力を身に付けることを目的とする。 各状況に合った対応方法、注意点などを学ぶ。	2 ①	40		○		
	○	サービス接遇実践	接客対応で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。 ケース別の実践的なロールプレイングを行い、より実践的なトレーニングを行う。	2 ①	40		○	△	
	○	受付対応実習	受付での様々な状況を理解した対応能力を身に付けることを目的とする。 各状況に合った対応方法、注意点などを学ぶ。	2 ①	40		△		○
	○	看護概論	患者の治療、看護にあたっての問題点を理解することを目的とする。 治療、看護への介入のポイント、介入方法などを学ぶ。	2 ② ③	40		○		
	○	小児保健	小児患者の保険、治療にあたっての問題点を理解することを目的とする。 小児保健、治療のポイントなどを学ぶ。	2 ② ③	40		○		
	○	関連法規概要	医療に関連する法律を理解することを目的とする。 医療法をはじめ、医師法、療養担当規則等を学ぶ。	2 ② ③	80		○		
	○	診療録管理概論	診療録（カルテ）に関する記載事項等を理解することを目的とする。 診療録の管理方法、管理に伴う医療法や個人情報保護法等を学ぶ。	2 ② ③	40		○		
	○	患者接遇Ⅱ	患者の対応方法を理解する為、様々な状況設定を行った上でその時にどのように対応すべきかを学ぶ。	2 ① ③	40		○		△

	○		病院実習Ⅱ	現場での実習を通して、医療事務としての能力向上を目的とする。 患者の対応における場面に適した言動、行動を実践を通して身に付ける。	2 ①	80				○
	○		医事コンピューター実習Ⅱ	医事コンピュータの応用的な操作方法習得を目的とする。 診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を医事コンピュータを使用して作成するトレーニングを行う。特殊な入力方法の技術を身に付ける。	2 ② ③	40				○
	○		職業実践演習基礎	医療事務の業務内容を理解することを目的とする。 事務員としての業務、患者との関わりを実践的トレーニングを通して身に付ける。	2 ② ③	320			○	△
	○		職業実践演習応用	医療事務と他部署との連携を理解することを目的とする。 他専門職との関わりをトレーニングを通して身に付ける。	2 ② ③	280			○	△
合計					38科目	2,000単位時間（単位）				

② 医療事務学科 1年制

総履修時間 800 時間

③ スポーツ産業学科

総履修時間 2,000 時間（各学年 1,000 時間）

(文化教養専門課程スポーツ産業学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			漢字	日常的に利用する漢字能力を身に付けることを目的とする。 ビジネスで一般的に使用される熟語を中心に四字熟語、慣用句なども学ぶ。	1 ③ ・ 2 ①	80			○	
○			ビジネス基礎	基本的なビジネスマナーを身に付けることを目的とする。 企業人として最低限身に付けていなければならない立ち振る舞いなどを学ぶ	1 ③ ・ 2 ②	80			○	△
○			パソコン実習	officeソフトの基本操作を身に付けることを目的とする。 ワード、エクセルの操作方法の復習と他のソフトの基本操作について学ぶ。	1 ③ ・ 2 ①	80			△	○

○		スポーツ生理学Ⅰ	呼吸循環系・エネルギー代謝、筋力発揮のメカニズムに関する知識習得を目的とする。運動により生じる反射機能を中心に学習する。	1 ①	80		○	△	
○		スポーツ解剖学	身体の骨・筋肉構造に関する知識習得を目的とする。機能解剖学やバイオメカニクスの基礎的知識を学び、運動動作の正確性について理解する。	1 ①	80		○	△	
○		トレーニング科学論・実習Ⅰ	エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させることを目的とする。有酸素性作業能力を向上させるための運動強度、頻度、継続時間などについての知識を身に付ける。	1 ①	80			△	○
○		エアロビクス理論・実習	エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させることを目的とする。有酸素性作業能力を向上させるための運動強度、頻度、継続時間などについての知識を身に付ける。 エアロビックダンスの特性と効果について理解させることを目的とする。エアロビックダンス一連の運動動作を実習し、運動プログラムの作成、指導方法について身に付ける。	1 ① ②	80		△		○
○		レクリエーション実習論	レクリエーションの基本技術を身に付けることを目的とする。 対象別・環境別のレクリエーションについて自ら前に出て実習を行し実践的な学習を行う。	1 ②	80			△	○
○		スポーツケア概論・実習	ストレッチングの理論(意味とその効果)を理解しストレッチングの実施方法と指導方法の習得を目的とする。 案税制を理解し、各部位のストレッチング方法を実習する。	1 ②	80		△		○
○		テーピング実習	正しい解剖学的知識をもとに、部位、疾患、病状に応じたテーピングを選択、実施する技術を身に付けることを目的とする。	1 ②	80		△		○
○		スポーツ演習Ⅰ	水泳、エアロビクスダンス、スクーバ、スキー、スノーボードなどの実習を通じて、知識・技能を身に付ける	1 ② ③	240				○
○		救急処置・実習	基本的な救急処置の実技習得を目的とする。 RICE処置を学ぶことにより、二次的外傷性損傷の知識を身に付ける。	1 ③	40		△		○

	○	アスレチック演習	安全かつ効果的なトレーニングプログラムを作成し、基本的なトレーニングの指導や、デモンストレーションが出来るようにする。	1 ③	40				○
	○	リハビリテーション実技	リハビリテーションに必要な基礎医学を学ぶ。生涯の受傷から復帰までのトレーニングプログラムの作成と実践の習得を目的とする。	1 ③	40			△	○
	○	保育実習	保育所の様子等の見学、実践現場体験を通して理解する事を目的とする。保育活動の補助を通して、初歩的な保育活動を実践する。	1 ③	40		△		○
	○	販売管理	販売業実務で必要とされる販売管理を身に付けることを目的とする。実務で要求される一連の業務知識について学ぶ。	1 ③	40		○	△	
	○	公務員対策(一般教養)	公務員試験に関する知識習得を目標とする。日本史・世界史・地理、政治、経済、社会、物理、化学、生物、現代文、英文等について学ぶとともに、一般教養科目の答案演習、問題演習を行う。	2 通	480		○	△	
	○	公務員対策(一般知識)	「速さ」「仕事算」「場合の数」などの基礎的な問題の解法習得や、「論理」「順序」「対応」などの基礎的な問題の解法習得を学ぶとともに、一般知能科目の答案練習、問題演習を行う。	2 通	400		○	△	
	○	レクリエーション概論	レクリエーションの基本知識を習得することを目的とする。対象別・環境別のレクリエーション運営方法を学習する。	2 ①	40		○	△	
	○	テーピング論	正しい解剖学的知識をもとに、部位、疾患、病状に応じたテーピングを選択する知識を身に付けることを目的とする。	2 ②	40		△		○
	○	エアロビクスダンス実習	エアロビクスダンスの特性と効果について理解させることを目的とする。エアロビクスダンス一連の運動動作を実習し、運動プログラムの作成、指導方法について身に付ける。	2 ①	40		△		○
	○	スポーツ演習Ⅱ	水の特性を理解し、4泳法及び水中運動指導を身に付けることを目的とする。4泳法水中ウォーキングアクアエクササイズ、レジスタンス運動を指導する技術を習得する。	2 ①	80				○

○	トレーニング科学論・実習Ⅱ	トレーナーとしての知識を実技を通じて身につけることを目的とする。トレーニングの正確動作は勿論のこと機械や道具使用時のグリップや補助法を学ぶ。	2 ①	40			△	○
○	運動プログラム作成実習	運動不足が健康に与える影響を理解させ、健康づくりのための原則を運動強度、時間、頻度の観点から運動プログラムを作成する知識取得を目的とする。	2 ①	40		○		△
○	職業実践演習	企業内で必要とされる基本業務を身に付けることを目的とする。マーケティングの知識・運用知識の習得を目的とする。連携企業からの指示に基づき、各種マーケティング手法を活用した経営企画案を作成する。	2 ② ③	480			○	△
○	スポーツ基礎医学	運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候を具体的にあげ、運動中止を判定する方法について理解することを目的とする。内科的障害として熱中症、過換気症候群等における急性障害の自覚症状と他覚徴候および予防方法について理解を深める。	2 ①	40		○	△	
○	スポーツ生理学Ⅱ	呼吸循環系・エネルギー代謝、筋力発揮のメカニズムに関する知識習得を目的とする。運動により生じる反射機能を中心に学習する。	2 ①	40		○	△	
○	スポーツ心理学	適切な動機づけとその工夫を習得させる。最近のスポーツ心理学の研究とともに、身体運動の制御メカニズム、スポーツ・スキル等の理解を深め、スポーツの実践・指導を合理的に進める方法を考える。	2 ①	40		○		
○	スポーツと栄養	スポーツと栄養に関するメカニズムを学ぶことにより、身体づくりの知識習得を目的とする。日本人の食事摂取基準や目的別の食事管理を学ぶ。	2 ①	40		○	△	
○	救急処置法	一時救命処置、応急手当を修得することを目的とする。一時救命処置は心肺蘇生、AEDを用いた除細動、軌道遺物除去法を学習し、応急手当は回復体位や止血法などによる手当を学ぶ。	2 ①	40		○		△
○	バイオメカニクス	運動動作に関する様々なエネルギー知識習得を目的とする。筋肉の弾性エネルギーや運動様式、着地衝撃、回転運動、スポーツ実施時の運動動作を学習する。	2 ①	40		○	△	
○	運動と心の健康論	適切な動機づけとその工夫を習得させる。身体運動の制御メカニズムの理解を深め、日常生活動作（ADL）、生活の質（QOL）の向上をはかり健康管理の方法を考える。	2 ①	40		○	△	
○	マッサージ概論	解剖学の知識を用い、スポーツマッサージを効果的に行うことを目的とする。筋肉の走行に沿ったケアを実施できるための知識、技術を習得する。	2 ①	40		△		○

○	健康管理概論	病気、健康、体力の概念、病気構造の変化とその理由及び高齢化社会の傾向と現状について理解させることを目的とする。健康づくりに果たす運動の役割についての知識を身に付ける。	2 ①	40	○	△
○	幼児体育	スポーツを文化的視点、生物学的視点、運動学的視点等の様々な視点で捉えることを目的とする。 自己の健康・体力づくり及び豊かなライフスタイルについての事例を通じた演習を実施する。	2 ①	40	○	△
○	児童心理	保育実践における子供の発達に関わる心理学の知識を習得することを目的とする。 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。	2 ①	40	○	△
○	幼児教育	こどもの発達と運動機能に関する知識や基本援助方法を身に付けることを目的とする。 運動遊びの効果、保育環境を設定しての遊びを学ぶ。	2 ①	40	○	△
○	販売事務管理	販売業に必要な事務管理知識を身に付けることを目的とする。	2 ①	80	○	△
○	流通システム概論	商品の精算と消費を結ぶ流過程において、業務活動の連鎖を構成する人・物・金・情報などの諸要素を学ぶ。	2 ①	40	○	△
○	簿記原理	簿記の基本原理の理解を目的とする。 個人商店を前提とした複式簿記の基本原理を学ぶことで簿記の基本原理を理解させる	2 ①	40	○	△
○	簿記通論	個人商店を前提とした会計処理方法の習得を目的とする。 一般的な商取引に対する会計処理、簿記の基礎にある初歩的な会計理論を学ぶ。	2 ①	40	○	△
○	帳簿組織論	商企業を前提とした、伝票会計、帳簿組織などの記帳技術を習得する事を目的とする。 試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類との関連性も体系的に学ぶ。	2 ①	40	○	△
合計			42科目	2,000単位時間(単位)		

④ 介護福祉学科

総履修可能時間 2,044 時間

(教育社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の理解Ⅰ	介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について学ぶ。また、コミュニケーションの意義を学習し、対話をする・意思の疎通を図る・説明責任がある、ということをもふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学ぶ。	1前	30		○		
○			人間の理解Ⅱ	介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について学ぶ。また、コミュニケーションの意義を学習し、対話をする・意思の疎通を図る・説明責任がある、ということをもふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学ぶ。	1前	30		○		
○			社会の理解	個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について学ぶ。また、社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて学ぶ。また、介護保険・障害者自立支援制度や、個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を学ぶ。	1前	60		○		
○			レクリエーション概論	レクリエーションの発展過程を見据えながら目標と理念、レクリエーションの展開方法などを学ぶ。また、高齢者や障害者に対するレクリエーションの与える影響などを踏まえたうえで、生きがい支援やリハビリテーションとしてのレクリエーション計画・実施・評価の方法や安全管理について学ぶ。	2後	30		○		
○			レクリエーション指導法	ホスピタリティートレーニングやアイスブレイキングとは何かを理解して、コミュニケーション能力と促進方法を身につける。また、目的にあわせたアクティビティを選択、展開、引き出し方法と活用、更に、対象にあわせたアレンジ方法も学ぶ。学習した内容をもとにアクティビティ体験と指導体験にて、実践力を学ぶ。	2後	40			○	

○		社会常識	社会人としての心構えをはじめ、個人または集団での仕事の進め方、報告連絡相談の必要性を理解する。また、先輩や上司、利用者など、他者への言葉遣いや立ち振る舞い、接遇力を演習を通して、実践力を学ぶ。	2 後	30			○	
○		情報科学演習	既存のソフトウェアを使用し、各種データ集計や統計処理について学び、そのデータを社内外へ報告するための技法（資料作成方法）について学ぶ。	2 後	30			○	
○		人間と社会の総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間と社会」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	2 後	30			○	
○		介護の基本Ⅰ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30			○	
○		介護の基本Ⅱ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30			○	
○		介護の基本Ⅲ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 前	30			○	
○		介護の基本Ⅳ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30			○	
○		介護の基本Ⅴ	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30			○	

○			介護の基本VI	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて、ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを学ぶ。また、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理などについて、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指すことを学ぶ。	1 後	30		○		
○			コミュニケーション技術 I	利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を学ぶ。また、介護におけるチームコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。	1 前	30		○		
○			コミュニケーション技術 II	利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を学ぶ。また、介護におけるチームコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。	2 前	30		○		
○			生活支援技術の基本	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。	1 前	60			○	
○			居住環境	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、安全で心地よい生活の場づくりについて学ぶ。	2 後	30		○		
○			家事介護	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、調理、洗濯、掃除、裁縫、買い物といった、自立に向けた家事の介助の技法について学ぶ。	2 前	30			○	
○			日常生活介護 I	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、身じたくに関する利用者のアセスメント方法や、介助の技法と留意点について学ぶ。	1 前	30			○	
○			日常生活介護 II	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、移動に関する利用者のアセスメント方法や、安全で気兼ねなく動けることを支えるための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。	1 前	30			○	

○			日常生活介護Ⅲ	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、食事に関する利用者のアセスメント方法や、おいしく食べることを支える介護の工夫や、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。	2前	30				○
○			日常生活介護Ⅳ	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、排泄に関する利用者のアセスメント方法や、安全・的確な排泄の介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。	1後	30				○
○			日常生活介護Ⅴ	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、睡眠に関する利用者のアセスメント方法や、安眠を促すための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。	2前	30				○
○			利用者の状態・状況に応じた介護技術	自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を学ぶ。また、移動に関する利用者のアセスメント方法や、安全で気兼ねなく動けることを支えるための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。	2前	30				○
○			介護過程Ⅰ	質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。	1後	30				○
○			介護実習Ⅱ	2段階実習では、重度生活障害を有する障害者又は老人の施設を実習施設とし、障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な使い方について学ぶ。また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法について学ぶ。ケースカンファレンスを通し、利用者の介護ニーズに対応する方法について学ぶ。	1後	160				○
○			介護実習Ⅲ	3段階実習では、施設運営プログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学び、チームの一員として介護を遂行できるよう取り組む（現任準備教育）。さまざまなプログラムに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。	2後	176				○

○			介護の総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	2後	90			○	
○			発達と老化の理解	人間が生まれてから高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う障害や疾病について学ぶ。さらには、高齢者の身体面と精神面の関係、身体機能と精神機能の変化についての知識を学ぶ。	2前	60			○	
○			医療的ケア	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を学ぶ。	2前	78			○	△
合計					4科目	2,044	単位時間(単位)			

⑤ 保育学科

総履修可能時間 1,725 時間

(教育社会福祉専門課程 保育学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			健康科学	生活習慣と環境との相互作用が、健康状態に与える影響を学ぶ。また、スポーツを文化的視点、生物学的視点、運動学的視点等の様々な視点で捉えることにより、自己の健康・体力づくり及び豊かなライフスタイルについての深い見識を身につける。	1前	15		○		
○			スポーツ(実技)	バレーボール、バドミントン、バスケットボール、ダンス等のスポーツ実技を通じ、各種スポーツ能力の向上、更には自己の健康・体力を適切に管理できる能力を養う。また、縄跳び、マット運動等の幼児期に必要な運動能力などについても学ぶ。	1前	30				○
	○		英語コミュニケーションI	基本的な英語力として、基礎的な単語力、文法力を習得し、reading及びwritingの力及び日常生活における基本的な会話力を身に付ける。また、会話に頻繁に使用される基本動詞の活用法を習得することにより、基本的な英語表現を習得する。	1通	60			○	

	○		一般教養	国語を中心として、手紙・ビジネス文書の書き方、漢字の練習、話し方、敬語の使い方等を学習し、読解力・作文能力を養い、社会人として、また保育士として正しい日本語の使い方を習得する。	1前	30		○		
	○		ビジネス教養	公務員試験または民間企業における入社試験などに対応できる一般知能科目及び一般知識科目を中心とした基礎学力の習得を図る。また、適性検査や面接などの対策も行なう。	1前	30		○		
	○		情報リテラシーと処理技術	パソコン（Word・Excel）の基本知識及び基本的操作技術を習得し、業務における様々な目的に応じて、柔軟かつ効率良く対処できる能力を習得する。	1通	60			○	
	○		憲法	日本国憲法の意義、特質を理解し、基本原理について学ぶ。なかでも基本的人権と統治機構について理解を深め、日本国憲法の全体像について学ぶ。	1後	30			○	
	○		保育原理	保育者となるための基本的な考え方を総合的に学習する。保育の意義を理解するとともに、保育所保育指針における保育の基本を理解する。また、保育の目標設定、計画、実践、記録、評価、改善の過程についても理解を深め、保育の現状と課題を理解する。	1前	30			○	
	○		児童家庭福祉	現代社会において児童がおかれている現状を把握するとともに、現在の児童家庭福祉制度及びその役割を体系的に理解する。また、児童家庭福祉の理念・制度の体系を概括的に理解し、児童の人権、児童をとりまく環境、児童家庭福祉に係る相談援助活動について理解する。	1前	30			○	
	○		社会福祉	社会福祉の理念の理解のもとに、わが国の社会福祉の体系、相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。また、社会福祉諸制度の具体的内容や歴史的展開、社会保障等の社会福祉に関連の深い領域、諸外国の動向などわが国の福祉体系を規定づける社会背景についても学習し、理解を深める。	1前	30			○	
	○		社会的養護	現代社会における社会的養護の理念と概念や歴史的変遷について理解し、社会的養護と児童家庭福祉の関係について学習する。また、社会的養護の制度や実施体系について理解し、施設養護の基本原則や、日常生活支援などの実際についても学習し、それらの現状と課題について学ぶ。	1後	30			○	

○			保育者論	保育者として欠くことのできない資質能力である「保育者としての使命感」と「子どもに対する教育的愛情」について学び、保育士の制度的な位置付けを理解する。また、保育者の役割や倫理、専門性を考察するとともに専門職間及び専門機関との連携、保護者や地域社会との協働についても理解を深める。	1前	30			○	
○			保育の心理学 I	保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、子どもへの理解を深める。その上で、如何に基本的信頼関係の獲得が子どもの他者とのかかわりに大切であるかを学習し、社会的相互作用の持つ働きについて理解を深める。また、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について捉え、さらに保育との関連についても考える。	1後	30			○	
○			保育の心理学 II	子どもの心身の発達と保育実践について学び、個人差や発達過程に応じた保育、身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用、環境としての保育者の役割などについて理解を深める。また、生活や遊びを通じた学びの過程について学ぶ。これらを踏まえて、保育における発達援助についての具体的な方法を習得する。	1後	30			○	
○			保育の心理学 III	教育の過程における心理学的法則が如何に養護・保育の場に効果をもたらすのかを理解する。 また、発達段階各期における保育と教育のあり方について関連付けて理解するとともに子育て支援の視点より教育的要素に関する相談に対応できる能力を身に付ける。	1後	60			○	
○			子どもの保健 I	乳幼児の健康管理のために、医学的な基礎知識を理解するとともに、疾病対策について理解を深める。また、事故や急病の際の適切な対処の方法について理解する。さらに、子どもの精神保健とその課題等について理解し、衛生管理並びに安全管理についても理解を深める。	1後	30			○	
○			家庭支援論	家庭支援の意義と役割を理解するとともに、保育士等が行う家庭支援の役割と重要性について理解する。また、現代の家庭生活を取り巻く社会的状況や支援体制を把握し、関係機関との連携についても理解を深める。	1後	30			○	

○		保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」、「保育の内容」に関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。また、子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえた観察や記録の観点について、実践を通して理解を深め、更に、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。	1前	30				○
○		保育内容 (健康)	子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の基礎として何が必要であるか、そして発育・発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ。	1前	30				○
○		保育内容 (人間関係)	子どもが他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。乳幼児をとりまく様々な環境（家庭・幼保・地域）から理解を深め、更に、演習を通して遊びや生活全体を通して豊かな人間関係が育めるような実践場面での生かし方を学習する。	1前	30				○
○		保育内容 (環境)	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」について学ぶ。子どもが遊びを通して環境と主体的・直接的に関わることにより、生活の基本的な物事についての概念等を形成し、生きる力を獲得していくことを理解し、その環境の中で子どもの遊びとは何か、さらに保育者の援助について具体的な事例をもとに理解を深める。	1前	30				○
○		保育内容 (言葉)	子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う領域「言葉」について学ぶ。乳幼児の言葉の獲得の道筋や発達を学ぶとともに、乳幼児期の子どもが言葉から受ける影響を認識する。そして乳幼児が園生活を通して豊かな言葉を獲得していくためには、保育者がどのように援助し役割を果たしたらよいかを、演習を通して考える。	1前	30				○
○		保育内容 (表現)	子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする領域「表現」について学ぶ。子どもの健やかな成長を促すためには、保育者が個々の表現活動を認め個性を伸ばしていくことが重要であることを十分に理解した上で、演習を通して具体的な実践方法を学ぶ。	1前	30				○

○			乳児保育 I	乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握し、それらの果たす役割、担当する保育者としての役割を自覚する。事例をもとに、保育士として必要な乳児保育の理論・知識・技術の基本、乳児期における大人の役割等を理解し現場での具体的課題を学ぶ。	1後	30				○
○			図画工作	演習授業内で使用する各課題での素材の特性を実際の作品制作の中で経験し、その経験の中から発達段階にある乳幼児の表現に対する指導方法を学ぶ。子どもの成長の中での表現の多様性や行動を紹介することで、学生個人の表現力を高めるとともに、保育する子どもたちが自由に発想し制作する作品に対する理解力や対応力を身につける。	1前	30				○
○			音楽基礎	楽譜の読み方、音程、音階、和音などの学びを活用し、音楽による基礎的な表現力を身に付ける。また、童謡や手遊びを題材に入れ、歌唱教育の技術を習得する。	1後	30				○
○			保育実習指導 I ①	保育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度を習得する。事前指導としては、実習の意義・目的や内容並びに実習日誌の書き方について学び、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導としては、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。	1後	30				○
		○	コミュニケーション論	円滑な人間関係の基本となるコミュニケーションスキルを学び、演習を通してスキルの向上を図る。その上で、幼児期から児童期への発達段階に応じたコミュニケーションスキルを指導するための知識と技術を習得する。	1前	30				○
○			教育原理	教育の目的・内容・方法及び児童福祉との関連性について理解するとともに、教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に学ぶ。また、生涯学習時代のあり方についても触れる。	2前	30				○
○			相談援助	相談援助の理論や意義、機能などの概要について学習し、その援助方法・技術について理解する。さらに、計画や記録・評価などの具体的展開として、関係する機関との協働や連携、社会資源の活用について理解を深める。また、ソーシャルワークの応用や事例研究を通じた支援方法についても理解を深める。	2後	30				○
		○	音楽表現 2	弾き語り技術や合唱を導入した展開の技術を習得する。また、音楽を楽しむ感性を養うとともに、音楽が生む感動を体験的に習得し、音楽を通じて表現を行うことについて理解し、保育者としての本質の向上を目指す。	2通	60				○

	○		鍵盤奏法の 応用1	童謡の伴奏等を教材として、保育現場で必要となる歌唱指導方法を身につけることを目指す。	2通	60				○	
	○		鍵盤奏法の 応用2	童謡の伴奏等を教材として、保育現場で必要となる歌唱指導方法を身につけることを目指す。また、旋律の取り扱い、発声、フレーズの作り方などの音楽的な演奏を追求することを目指す。	2通	60				○	
	○		保育実習Ⅰ②	児童福祉施設等の生活に参画し、観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ。また、実習を通して支援計画、記録の重要性を理解する。	2前	80					○
	○		保育実習指導 Ⅰ②	保育実習指導Ⅰ①を踏まえ、児童福祉施設実習に対する基本的な事項の確認と新たな実習課題の決定、課題達成に必要な準備を行なう。また、事後指導としては、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。	2前	30				○	
	○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰに引き続き保育所において、更に乳幼児への理解、保育士の職務、関連職員との連携等への理解を深める。実習では参加実習や部分実習、指導実習の段階を経て実践力を身につけ、責任実習を行なう。また、保育内容と指導、保育計画と指導計画、日案の理解と実践、乳幼児保育の担当、保育士としての役割・技術などを習得する。	2前	80					○
	○		保育実践演習	保育に関する教科目の横断的な学習能力を高め、顕在化・潜在化する課題について、問題の現状分析・検討を行い、課題解決のための対応や判断方法などについての学習をする。	2後	60				○	
		○	卒業研究	2年間の集大成として、各人がそれぞれにテーマを掲げ、自己の研究課題に取り組み、研究発表により成果を残す。	2後	30				○	
合計				65科目	1725単位時間(単位)						

(4) 進級、卒業要件等

① 本校に在学し、下記に定める授業時数以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。

- (ア) 医療事務学科 1, 700時間
- (イ) 医療事務学科1年制 800時間
- (ウ) スポーツ産業学科 1, 700時間
- (エ) 介護福祉学科 2, 044時間
- (オ) 保育学科 1, 725時間

② 介護福祉学科、保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき校長がこれを認定する。

- (ア) 授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、及び実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定をしないこととする。
- (イ) 授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者
- (ウ) 実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

(5) 成績評価

① 試験

- (ア) 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。
- (イ) 試験には定期試験、追試験及び再試験等がある。追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。
- (ウ) 追試験及び再試験は、本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。

② 学業成績

- (ア) 学業成績の判定は、優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、次のとおりとする。
 - a. スポーツ産業学科、医療事務学科
優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。
 - b. 保育学科、介護福祉学科
優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。

(6) 専門士・高度専門士の称号付与

- ① 医療事務学科を卒業された方には「専門士（商業実務専門課程）」の称号が付与されます。
- ② スポーツ産業学科を卒業された方には「専門士（文化教養専門課程）」の称号が付与されます。
- ③ 介護福祉学科を卒業された方には「専門士（教育社会福祉専門課程）」の称号が付与されます。
- ④ 保育学科を卒業された方には「専門士（教育社会福祉専門課程）」の称号が付与されます。

(7) 目標とする国家試験、検定試験等

医療系試験：診療報酬請求事務能力認定試験（医科）医療請求事務検定

医療秘書実務検定、調剤薬局事務検定 など

スポーツ系試験：健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者、

JAFAGFI（SEI、REI、ADI、AQWI、AQDI）

キャンプインストラクター、PADIオープン・ウォーター・ダイバーなど

介護系試験：介護福祉士

保育系試験：保育士、レクリエーション・インストラクター など

(8) 主たる国家試験、検定試験等の合格実績（平成28年度学園実績）

医療系試験：診療報酬請求事務能力認定試験（医科） 875名、調剤薬局事務検定 377名

医療請求事務検定 1級 1,304名、2級 1,352名

医療秘書実務検定 1級 1,260名、2級 1,265名

スポーツ系試験：健康運動実践指導者 84名、JATI認定トレーニング指導者 62名

JFAA-GFI 118名、JFAA-REI 135名

JFAA-SEI 143名、JFAA-ADI 109名

JFAA-AQWI 115名、キャンプインストラクター 267名

PADIオープン・ウォーター・ダイバー 79名

介護系試験：介護福祉士 166名

保育系試験：保育士 232名、レクリエーション・インストラクター 276名

(9) 卒業生の進路（2017年3月卒業生学園実績：2017年3月15日現在）

- ① 医療事務学科卒業生数 13名
- ② 医療事務学科就職者数 12名
- ③ スポーツ産業学科卒業生数 19名
- ④ スポーツ産業学科就職者数 18名
- ⑤ 介護福祉学科卒業生数 4名
- ⑥ 介護福祉学科就職者数 4名
- ⑦ 保育学科卒業生数 6名
- ⑧ 保育学科就職者数 3名
- ⑨ 全国専門課程就職率 98.3%（就職希望者5,256名中5,169名）
- ⑩ 関西圏専門課程就職率 99.3%（就職希望者744名中739名）
- ⑪ 全国専門課程医療機関就職率 99.2%（就職希望者901名中894名）
- ⑫ 関西圏専門課程医療機関就職率 100%（就職希望者148名中148名）
- ⑬ 全国専門課程福祉施設就職率 100%（就職希望者154名中154名）
- ⑭ 関西圏専門課程福祉施設就職率 100%（就職希望者21名中21名）
- ⑮ 全国専門課程保育施設就職率 100%（就職希望者130名中130名）
- ⑯ 関西圏専門課程保育士施設就職率 100%（就職希望者8名中8名）
- ⑰ 主な就職先

ゼビオ(株)、(株)メガスports、(株)コロンビアスポーツウェアジャパン、グンゼスポーツ(株)
トータルワークアウトプレミアムマネジメント(株)、(株)オーグースports、(株)アクトス
(株)ティップネス、ミズノスポーツサービス(株)、(株)イトマンスイミングスクール
大阪市民病院機構、大阪医科大学三島南病院、尼崎中央病院、宝塚第一病院、加納総合病院
越川病院、交野病院、紀の川病院、社会医療法人 弘道会、梅岡耳鼻咽喉科クリニック
公立神崎総合病院、医療法人普門会姫路田中病院、医療法人吉徳会あさぎり病院
(株)サエラ、(株)日本ビジネスデータプロセッシングセンター、(株)フロンティア、(株)育星会
社会福祉法人檸檬会、コムシェいばらき、特別養護老人ホームなにわ、医療法人 医誠会本部、
萩の台ちどり、介護老人保健施設二葉園、(株)ハーフ・センチュリー・モア、社会福祉法人丸
社会福祉法人さゆり会、社会福祉法人フジの会、社会福祉法人ネバーランド福祉会
社会福祉法人高津学園、アイグラン、社会福祉法人愛和会、社会福祉法人聖隷福祉事業団
社会福祉法人明和福祉会、ののほな保育園、社会福祉法人和歌山みちる会

他多数の優良企業に内定。

3. 教職員（3）

（1）教職員数

学則に規定する下記の教職員が在席しています。

校長 1 名 教員 21 名以上 事務職員 1 名以上 学校医 1 名

（2）教職員の専門性

① 保有資格：

医療系：診療報酬請求事務能力認定試験（医科）と同等以上の資格を有する。

スポーツ系：健康運動実践指導者や J A T I 認定トレーニング指導者などのスポーツ資格を有する。

介護系：介護福祉士又は看護師と同等以上の資格を有する。

保育系：保育士又は幼稚園教諭 2 種免許状と同等以上の資格を有する。

② 教員研修：企業等と連携し以下の教員研修を実施して、教員の専門性を維持向上させている。

（ア）専門知識

医療系：診療報酬教員研修会、医療事務実務教員指導力研修会

スポーツ系：スポーツ（トレーニング、専門科目理論）

介護系：介護技術の向上研修、適切な介護技術の指導方法

保育系：保育教員研修会、実習演習担当教員勉強会

（イ）指導力

講義力研修

4. キャリア教育・実践的職業教育（4）

（1）キャリア教育

大原学園では学生一人ひとりの「幸せな就職」をテーマに、就職後に即戦力として活躍するためのキャリア教育を入学時のカリキュラムに取り入れ実践しています。主なものは以下のとおりです。

① 入学時：就職ガイダンス（将来の目標確認）

② 1 年生 4 月～7 月：就職の心構え、自己分析、SPIP-3 対策テスト（MSR-P I・II）

③ 1 年生 8 月～12 月：自己分析、自己 PR 作成、面接練習、業界研修・企業研究

④ 1 年生 1 月～3 月：学内企業セミナー、業界研修・企業研究

⑤ 2 年生 4 月～8 月：学生個人の特性を考慮した就職求人紹介

⑥ 2 年生 9 月～1 月：P-C-P（プレ・キャリア・プログラム）教育

（2）実習・実技等

大原学園では実習、実技に注力し、実践的な教育カリキュラム編成を行なっています。様々な実習実技がありますが特に以下の実習では、カリキュラム編成、実習運営、成績評価について、企業と連携した実践的な講義内容となっています。

授業科目	対象	年次	履修時間	連携企業
病院実習 I	医療事務学科	1 年次	120 時間	公立神崎総合病院 他 27 院
エアロビクス理論・実習	スポーツ産業学科	1 年次	80 時間	株式会社サップス
スポーツ演習 I	スポーツ産業学科	1 年次	240 時間	スポーツクラブ NAS 姫路
介護実習 I	介護福祉学科	1 年次	120 時間	社会福祉法人 やながせ福祉会 他 52 施設
介護実習 II	介護福祉学科	1 年次	160 時間	社会福祉法人

介護実習Ⅲ	介護福祉学科	2年次	176時間	やながせ福祉会 他 21 施設
保育実習Ⅰ①	保育学科	1年次	80時間	学校法人五字ヶ丘学園
保育実習Ⅰ②	保育学科	2年次	80時間	五字ヶ丘幼稚園 他 45 園
保育実習Ⅱ	保育学科	2年次	80時間	学校法人五字ヶ丘学園 五字ヶ丘幼稚園 他 31 園

(3) 就職支援等

大原学園では学生の就職活動が円滑に進むように、多くの企業と連携して学内イベント等を開催しています。また、学生が不安なく就職活動に臨めるように、担任が準備から実際の活動まで様々なサポートを行います。

① 企業等と連携した支援

- (ア) ファッションセミナー
- (イ) 業界研究セミナー
- (ウ) 学内採用説明会・採用試験

② 担任による就職支援

- (ア) 自己分析面談、自己 PR 作成支援
- (イ) 求人紹介
- (ウ) 志望企業研究支援
- (エ)

5. 様々な教育活動、教育環境 (5)

大原学園では資格取得教育のみならず、多彩な学校行事や課外活動を通じて学生のコミュニケーション能力、企画力、実行力等の社会適応能力の育成に注力しています。

(1) 学校行事

- 4月・・・入学式、オリエンテーション (1年生対象)
- 5月～11月・・・フレッシュマン研修 (1年生対象)
- 10月・・・スポーツフェスティバル
- 11月・・・AOCC電卓競技大会、スポーツチャンピオンズカップ
- 12月・・・海外研修
- 1月・・・合格祝賀会、関西圏ダンス大会
- 3月・・・卒業式、卒業記念パーティー (卒業生対象)

(2) 課外活動

① クラブ活動

- ダンス部・・・大原関西圏ダンス大会 (1月)
- 電卓部・・・全日本電卓競技大会、AOCC電卓大会 (1月)

② 地域貢献

- 各種ボランティア活動

6. 学生の生活支援 (6)

大原学園では学生一人ひとりが充実した学生生活を送れるように様々なサポートを行なっています。

(1) 完全担任制

完全担任制により出席管理、生活指導、進路指導を行っており、個人面談の機会を多く設け学校生活における様々な悩みを担任と共に解消していく環境を整えております。また、定期的なアンケートを実施して充実感、不安感などの把握にも務めています。

(2) 就職教育

「幸せな就職」をテーマにして担任は学生の特性を引き出すための個人面談を継続的に実施します。その上で、求人紹介は担任が責任を持って行い、就職内定先とのミスマッチを最低限に抑えられるように取り組んでいます。

7. 学生納付金・修学支援 (7)

(1) 学生納付金

①公務員公安系、公務員事務系、ビジネスライセンス系、医療事務系、保育士・幼稚園教諭系、製菓・製パン系

(単位：円)

	納入日	入学金	授業料	教材費	維持費	合計
1年次 納入金	前期：入学手続時	200,000	330,000	40,000	60,000	630,000
	後期：2018年8月31日	—	330,000	40,000	60,000	430,000
2年次 納入金	前期：2019年2月28日	—	330,000	40,000	60,000	430,000
	後期：2019年8月31日	—	330,000	40,000	60,000	430,000

②介護福祉系、情報・IT系、クリエイター系、マンガ・イラスト系、声優・俳優系、スポーツ系、旅行観光系、ホテル系、エアライン系、ブライダル系、ビューティー系、救急救命士コース、スポーツ・公務員コース、スポーツ・警察、消防官コース、IT・公務員コース、歯科衛生士コース

(単位：円)

	納入日	入学金	授業料	教材費	維持費	合計
1年次 納入金	前期：入学手続時	200,000	330,000	40,000	90,000	660,000
	後期：2018年8月31日	—	330,000	40,000	90,000	460,000
2年次 納入金	前期：2019年2月28日	—	330,000	40,000	90,000	460,000
	後期：2019年8月31日	—	330,000	40,000	90,000	460,000

- 実習・演習費、学外研修費、検定受験料、卒業にかかる費用が別途必要になります。なお、費用は各コースにより異なりますので詳細はお問い合わせ下さい。
- コースにより実習用具、消耗品等の購入が必要になります。なお、費用は各コースにより異なりますので詳細はお問い合わせ下さい。
- 入学手続時納入金は、合格通知に記載されている指定期日（合格通知発行日より約2週間）までに納入して下さい。
- 前期・後期各80,000円（製菓・製パン系のみ前期・後期各160,000円）の実習・演習費が別途必要となります。授業料等の納入日に、併せて納入していただきます。なお、公務員総合夜間、働きながら学べるコースは実習・演習費は不要です。
- 大原学園では授業延長や補習に関する費用等は徴収しません。
- 入学手続完了後、2018年3月31日以前に入学辞退を希望する場合は、本学所定の学費返還手続により納入金額から入学金を除いた額を返還できます。
- 一旦納入された入学金については、入学手続完了前であっても返還できません。なお、大原学園に再入学される方は入学金は不要です。

(2) 奨学金、授業減免等

① 試験による特別奨学生制度

大原学園では、がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。詳しいご紹介については HP で公開しております。

<http://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/support/test/>

② 資格・クラブ活動による特別奨学生制度

大原学園では、がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。詳しいご紹介については HP で公開しております。

<http://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/support/qualification/>

<http://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/support/club/>

③ 留学生を対象とした学費減免制度

高い目的意識を持って大原学園で学ぼうとする留学生を応援する制度です。一定の条件を満たした方は推薦制度を利用して学費の減免が受けられます。詳しいご紹介については HP で公開しております。

<http://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/info/foreigner/>

④ その他

国の教育ローン、日本学生支援機構の奨学金等の公共機関等の制度のご紹介も行っていますので、ご相談ください。

8. 学校の財務 (8)

HP で公開しております。

<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/2017/financial-overview.pdf>

9. 学校評価 (9)

HP で公開しております。

<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/2017/evaluation/02-65.pdf>

10. 国際連携の状況（10）

（1）留学生の受入

① 入学手続き（資格・選考）について

（ア）日本語能力試験 N2以上が出願資格になります。また、日本語での講義についていけるかどうかを確認するための面接試験を行います。

（イ）一定の条件を満たす方は留学生推薦制度による学費減免を利用することが出来ます。

② 入学後の生活について

（ア）日本での就職を目指して、日本語補講や各種資格取得を目指します。全ての学習内容について、担任の先生がサポートを行います。日本語能力試験については全員が N1 レベルに合格できるように補講体制を整えています。

（イ）様々な学校行事を通じて、日本人学生との交流が出来ます。また、日本文化に触れてもらうための課外授業や町内行事への参加も行います。

③ 卒業後の進路について

日本企業への就職だけでなく、大学、大学院への進学者もいます。

（2）外国の学校等の提携状況

大原学園では、東北财经大学、北京理工大学珠海学院、四川師範大学、武漢平成日本語培訓大学等と提携して留学生の受入を行っています。

【学校情報の提供に関するお問い合わせ先】

大原学園では、本学園の情報提供指針に基づいて情報を公開しております。

<問合せ先>

学校法人 大原学園 大原医療福祉&スポーツ保育専門学校姫路校

〒670-0902 兵庫県姫路市白銀町61番地 TEL079-284-2700